

新聞に親しみ、自己の思考力・判断力・表現力を磨いていく生徒の育成

日南市立細田中学校
教諭 小林直子

1 はじめに

NIEは、世界共通の活動であり、今なお広がっている。また、閲読習慣が身に付くことでOECDの調査で「読解力向上に新聞は有効」と出ている。本校は、日南市南部の自然豊かな地にあり、素直で温厚な生徒が多い。しかし、新聞を購読していない家庭が多く、自分の力で行くことができる距離に図書館がないなど、なかなか新聞を読む環境をつくることができない。したがって、新聞に触れる機会をつくり、授業等で新聞を使って学習内容を身に付けさせたり、学習したことを生かして新聞を作らせたりすることで、思考力、判断力、表現力を磨くことができるのではないかと考える。NIEを通して、社会への関心を高め、言語活動を活性化し、学力の向上にもつなげていきたい。

2 実践の仮説

学校全体や授業で、NIEに取り組むことで思考力、判断力、表現力を生かして意欲的に言語活動を行うことができるだろう。

3 実践の内容

- (1) 新聞に親しむための学校全体における組織的な取組の工夫
- (2) 授業における新聞に触れる機会の確保の工夫
- (3) 思考力、判断力、表現力を生かして自ら新聞を書く取組の工夫

4 実践の実際

- (1) 新聞に親しむための学校全体における組織的な取組の工夫

① 掲示の工夫

ア 「新聞コーナー」の設置

学校に届けられる新聞2社のその日の朝刊を教室前に設置した。1週間分は、テーブルに置くようにすることで、見る機会を増やすようにした。学習文化委員会の生徒が毎朝設置した。

イ 「先週の1面」の掲示

1週間分の新聞の第1面をまとめて掲示することで、教室移動の際、見るようにした。学習文化委員会の生徒が毎週掲示した。



【設置した「新聞コーナー」】



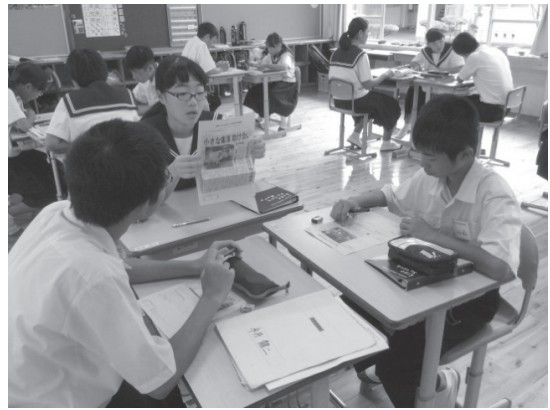
【掲示した「先週の1面」】

② 朝の時間の活用

毎週火曜日朝8時から8時15分を「NIEタイム」として各学年の実態に応じてNIE活動を行った。まず、1週目は、「災害、命、政治など自分の決めたテーマに沿った記事をもって来てスクラップ記事にまとめる。」2週目は、「まとめた記事をグループで発表し、感想を話して交流する。」とした。さらに、学年の実態に応じて、グループで発表したものを生かして、朝の会や帰りの会で1分間スピーチを行った。作成した新聞スクラップは、教室の後方に個別で掲示した。



【朝の時間の様子】



【活動の様子】

(2) 授業における新聞に触れる機会の確保

① 第2学年国語科「単元 反対意見を想定して書こう」

ア 本時の目標

意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりする。

イ 本時の学習目標

「高齢者の免許は返納すべきかどうか」について立場を明確にし、反対意見に対する的確な反論を考えよう。

ウ 本時の主な学習指導過程

高齢者の交通事故が新聞でよく取り上げられる中、高齢者の免許を返納すべきだという高齢者の投書を読み、自分の考えを根拠とともに明確にする。グループの話し合いを通して、意見が同じでも根拠の多様性を知ったり、違う立場の意見の根拠を知ったりすることで自分の考えに深みをもたせるようにする。

オ ワークシートの一部

— 反対意見を想定して書こう —

【学習課題】

- ① 的確な反論を練習する。
- ② 自分の立場を決め、根拠を考える。
- ③ 反対の主張の根拠を予想し、反論を考える。
- ④ 自分の意見の根拠を再検討する。
- ⑤ 意見文を書く。
- ⑥ 完成した意見文を読み合う。

【課題】「強制的に免許返納すべきか、すべきでないか」
新聞の投書を見よう。

- ① 自分の立場を明確にしよう。どっちの立場ですか。
- A 強制的に返納すべき
- B 強制的に返納すべきではない

② ①の立場で根拠を言えよう。

③ ①の立場で、どのような反論が予想されるか。

④ ③の意見に反論を考えよう。



【2016年11月25日付宮崎日日新聞】

② 第3学年国語科「単元 論語」

ア 新聞を使った内容

孔子とその弟子たちの言行をまとめた「論語」を学習したあと、学習内容と社会的に身近な生活をつなげるため、学習した言葉にあてはまる新聞記事を考えさせた。

イ 生徒の主な意見

- 「過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ」
 - ・ タレントによる当て逃げ事件の記事内容
 - ・ タレントによる薬物の使用の記事内容
- 「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ」
 - ・ 東日本大震災の被災者への誹謗中傷の記事内容
 - ・ モラルに反する行動を動画にアップする人たちの記事内容

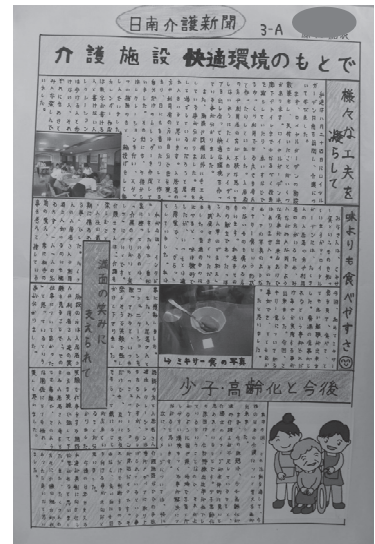
(3) 思考力、判断力、表現力を生かして自ら新聞を書く取組

全学年の総合的な学習の時間において、学習したことを壁新聞にまとめ、2学期の文化祭で掲示した。はじめての取組だったので、宮崎日日新聞社に相談し、快く講習してくださった。

① 年間の主な計画

4月	総合的な学習の時間計画
5月、6月	第1学年 第2学年 第3学年 それぞれのテーマに沿って学習を進める。
7月	講習①(全学年) 宮崎日日新聞社読者室室長に来ていただき、新聞を書くにあたって、調査方法、話の聞き方、写真の撮り方、構成について学んだ。
8月	夏休み3日間全学年調査活動
9月	調査したことのまとめ 講習②(全学年) 宮崎日日新聞社日南支社長に来ていただき、新聞の構成について学んだ。 講習③(3学年のみ) 宮崎日日新聞社日南支社長に来ていただき、生徒がまとめた下書き段階のものにアドバイスをしてくださった。
10月	壁新聞の仕上げ、掲示発表

② 生徒の作品



③ 取組に対する記事 (宮崎日日新聞)

【平成28年7月7日(木) 記事】

壁新聞制作前に細田中生 読み方、写真撮影学ぶ

壁新聞制作前に宮日がやってくるのは6日、日南市の細田中(前田俊彦校長、56歳)であった。同校は昨年度から日本新聞協会認定のN1E実践指定校となつて、同校では新聞の読み方や取材の仕方、写真の撮り方を学ぶ機会がある。この日は、宮崎日日新聞社の記者が新聞作り方を指導する出前授業を行った。

お互いに写真を撮り合っって人物写真の撮影を練習する生徒

「取材は、取材先へ行くときは元気よく挨拶を交わす。取材先へ行くときは、取材先の人に挨拶を交わす。取材先の人に挨拶を交わす。取材先の人に挨拶を交わす。」

「取材は、取材先へ行くときは元気よく挨拶を交わす。取材先へ行くときは、取材先の人に挨拶を交わす。取材先の人に挨拶を交わす。取材先の人に挨拶を交わす。」

【平成28年9月17日(土) 記事】

訴えたいこと明確に 細田中生 新聞作り学ぶ

「訴えたいこと明確に」をテーマに、新聞作りを学ぶ。生徒たちは、取材先へ行くときは元気よく挨拶を交わす。取材先へ行くときは、取材先の人に挨拶を交わす。取材先の人に挨拶を交わす。取材先の人に挨拶を交わす。」

「訴えたいこと明確に」をテーマに、新聞作りを学ぶ。生徒たちは、取材先へ行くときは元気よく挨拶を交わす。取材先へ行くときは、取材先の人に挨拶を交わす。取材先の人に挨拶を交わす。取材先の人に挨拶を交わす。」

日本新聞協会のNIE（教育に新聞を）実践指定校となつている日南市の細田中で、新聞作りの出前授業を開いた。生徒は夏休み中、地域を回って各自のテーマで取材済み。授業ではそれぞれを説明にして、紙面にすることを何となく、ポイントは何を取材して、最も訴えたいことは何かを明確にすること。例えば、ある生徒は地域の防災対策を取材し、避難場所を知らない人が多かったため、知らせる工夫が大切と答える。次に、その「訴えたいこと」を10文字前後に要約、つまり見出しにする。これが難しい。余分な言葉を削り、一番肝心な部分だけを残す。生徒も苦労していたが、出来上がった壁新聞にどんな見出しが並ぶか楽しみだ。来月の校内文化祭で披露される。（俣野秀幸）

■ 俣 太 郎

細田中

学んだ成果 紙面化 生徒新聞 文化祭で披露



日本新聞協会の認定のNIE実践指定校となつている日南市の細田中（前田校長）で、22日、校内文化祭があり、生徒が製作した新聞が保護者に披露された。宮崎日日新聞社の記者が指導する出前授業。一学校に宮日が行ったのは7月から3回開き、生徒が記事の書き方や見出しの付け方、レイアウトなどを学んできた。1年生は教人グループで壁新聞、2・3年生は一人一人が4サイスの新聞を製作。文化祭で同校体育館に張り出された。1年生の壁新聞では、地区のミカン農家を取材し、栽培にさまざまな工夫が施されている様子を「細田『地産地消』活性化」の見出しと記事で伝えた。2年生は理容室や保育園など、それぞれが職場体験の内容を紙面化した。3年生は防災や観光イベントなどに取材して記事を書き、見出しやレイアウトも工夫。福祉施設を取材した生徒は、介護職の離職率が年々増加している現状を伝え、「介護の魅力伝えていきたい」と書いた。熱心に見入っていた保護者の一人は、「この新聞もよくまとまってる」と褒めていた。（俣野秀幸）

5 各取り組みの成果と課題

(1) 新聞に親しむための学校全体における組織的な取組の工夫について

成果： 組織的に、新聞を読み、スクラップ新聞を書き、多くの記事についてスピーチを聞き、感想を話して交流するなど、多様な言語活動を積み重ねることで、新聞を読む機会を作ることができた。

課題： 週に一度、15分の活動では、活動のつながりの意識が薄れてしまうので、他活動との兼ね合いもあるが、一定の連続した日を設定して取り組ませたい。

(2) 授業における新聞に触れる機会の確保について

成果： 学習内容と社会的事象をつなげることができた。

課題： 国語科として、全学年で新聞を生かす機会を増やすとともに、他教科とも連携してNIEの機会を増やしたい。

(3) 思考力、判断力、表現力を生かして自ら新聞を書く取組について

成果： 宮崎日日新聞社から講師に来ていただき、的確に教えてもらったことで、生徒の意欲も高まり、職員も共通して具体的な指導をすることができた。

課題： 来年度以降どのように継続させていくかを検討したい。

6 全体を通した成果と課題

成果： 教室前に置かれた新聞を手にして談笑する生徒の姿を見かけることが増えたと感じている。新聞を読んだ方がよいという意識を高めることができた。

課題： 年度当初にとったアンケートでは、第3学年で23人中14人の家庭で新聞が購読されていた。そのうち、家で新聞を読んでいる生徒は、8人であった。2年生では、16人中7人の家庭が購読し、うち4人の生徒が家で読んでいる。1年生では、19人中11人の家庭が購読し、うち10人の生徒が家で読んでいる。家に新聞があっても読まない生徒もいれば、家庭で新聞を購読してなくても読みたいと思う生徒もいる。新聞を読む必要性を感じない生徒は、3年生で7人、2年生で11人、1年生で6人。彼らの意識を少しでも刺激していき、新聞の継続的な閲覧習慣につなげ、実態の把握に努めたい。

新聞取り入れる
細田中3年 湯地 楓

私は、総合的な学習の時間で、職場体験で学んだことを壁新聞にまとめました。前日の方に来ていただき、取材の方法、写真の撮り方や載せ方などアドバイスをもらいました。その中で、一番気に入ったのが見出しでした。どうしたら、読む人が気留めしてくれるだろうかと考えた末、ようやく一つの壁新聞が出来上がりました。

新聞を作るのはこんなに大変だったのかと知った時、大変な思いで見つけた新聞が、変わりました。見出しで目ざし、リード記事の中身を簡単に詳しく説明しているのです。

毎日新聞を作っている方々の苦労や大変さ、そして新聞の素晴らしさを学びました。これからはもっと日常生活でも、新聞を取り入れたらいいと思います。

白間市